

米沢市大浦B遺跡出土の漆紙文書について

国立歴史民俗博物館

平

川

南

一、形 状

ほぼ円形を呈し、漆液を入れた曲物容器のふた紙の形が非常に良好に残されている。漆紙の最大径は約一八cmを測り、曲物の推定径は約一五cmと考えられ、これまでの漆紙文書をもとにした左図「漆液を入れた容器（曲物）の推定径」のうちの小型の部類に属することがわかる。

なお、紙背文書は確認できない。

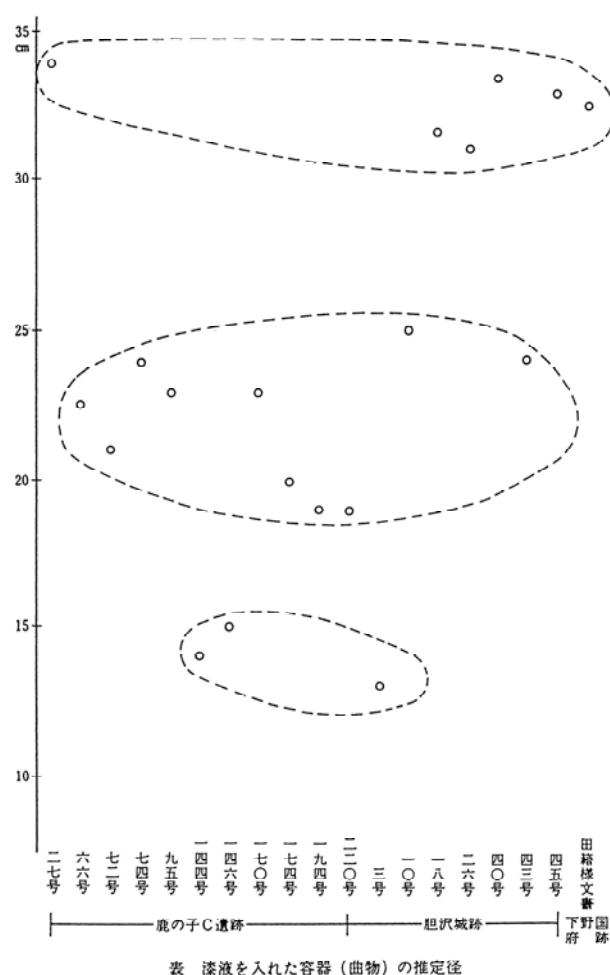


表 漆液を入れた容器（曲物）の推定径

〔拙著『漆紙文書の研究』総論第1章60頁より〕

二、积文

× 厥疾 大歲位 壞垣破屋 ×
□ 辟臨 大歲位月德祠祀壹垣破屋伐樹解除 ×

× 酉木成沐浴大歲位謝土祀并解除除 服 吉

× 戊水收 大歲位漁獵種蒔吉

× 癸亥水開 下弦 水澤 沐浴 隱錯重厭

甲子金閑 腹堅 大歲衣 天恩天赦歸忌血祠祀 上梁 ×
沐浴

× 景寅火除除足甲 小過內 大小歲前天恩拝官結婚娶 ×

× 大小歲前天恩往亡 經絡上 ×
冊授

× 大小歲對天恩復裁衣買納 ×

× 過外大歲位 ×

三、具注暦とその遺存例

この漆紙文書は、「具注暦」断簡である。具注暦とは暦面を上・中・下の三段に分けて暦日の下に日の吉凶・禍福などの暦注を具備した暦のことである。

現存する八・九世紀の具注暦は次のとおりである。

年代	西暦	暦名	種別	遺跡（所在地）
1 神龜六年暦	七二九	儀鳳暦	木簡	城山遺跡（静岡県浜名郡）
2 天平十八年暦	七四六		正倉院文書	元嘉曆 持統六年（六九二）
3 天平二十一年暦	七四九			——儀鳳曆
4 天平勝寶八歳暦	七五六			天平寶字七年（七六三）
5 天平勝寶九歳暦	七五七	儀鳳曆		——大衍曆
6 天平宝字三年暦	七五九			天安二年（八五八）
7 天平宝字七年暦	七六三			貞觀四年（八六二）
8 寶龜十一年暦	七八〇	大衍曆		——五紀曆
9 延暦九年暦	七八〇			宣明曆
10 延暦二十二・三年暦	八〇三・八〇四			貞亨元年（一六八四）
11 年代未詳暦	(延暦年間カ)			
12 弘仁十二年暦	八二一			
13 嘉祥元年暦	八四八			

胆沢城跡（岩手県水沢市）
鹿の子遺跡 e 区（茨城県石岡市）
多賀城跡（宮城県多賀城市）
胆沢城跡（岩手県水沢市）
鹿の子遺跡 e 区（茨城県石岡市）
多賀城跡（宮城県多賀城市）
胆沢城跡（岩手県水沢市）

古代における具注暦は、毎年中央の陰陽寮で作成され、中務省を経て諸司・諸国に配布された。しかし領暦の実態は諸国から雑掌らが都に上り、書写して持ち帰っていたと思われる。その國府に備え置かれた具注暦一本は、さらに同様に書写されて國府内の諸機關や國分寺そして郡家などにも備えられたのである。

四、暦の記載事項

暦の体裁は、上段が日付・干支・納音・十二直からなり、中段は二十四節氣と七十二候、下段は暦注が記載されている。まず、この具注暦は七十二候のうちの「水澤腹堅」、六十卦の「辟臨」「候小過内」の存在から十二月暦の下旬部分と判断できる。

一年の長さを二十四に等分し、この一つ一つにその時の季節の名を与えて、これを二十四節氣といい、これをさらに分割して一氣を三候にする、いいかえれば一年の長さを七十二に等分して、これにその季節にふさわしい名称をつけて呼んだ。これを七十二候といっている。一候の長さは大体五日である。

また、次表を参照すれば、明らかなようにすべて十二月暦であることを裏付けている。

血忌日——甲子	子の日→十二月の暦
帰忌日——甲子	子の日→十二月の暦
厭日——癸亥	亥の日→十二月の暦
天赦日——甲子	各甲子にあたる

具注暦は繰り返し書写され、しかも一年分をすばやく書写したと思われ、正倉院文書中の三例をはじめ、出土具注暦もほ

とんど誤写が認められる。この点に注意しながら、まず日を追つて検討してゆきたい。なお、本暦は墨界線を確認できないが、縱行はほぼ整っている。一方、横行は、一般的に上・中・下段を意識してそれぞれの冒頭を揃えているが、この暦は中段の記載事項が多い場合、下段にくいこみ、下段の記載を下げて記している点に注意する必要がある。

母	天	天	往	月	厭	九	帰	血	暦	註	正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
天	恩	赦	亡	煞	対	坎	忌	忌														
倉																						
	節	不	季	入	り	數	節	切														
	切	断	節	節	日	え	るよ		「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「
子亥	丁甲子	春		七	丑	辰	戌	辰	丑	丑												
	卯子																					
子亥	戊辰	戊	寅	十四日廿一日	戌	卯	酉	丑	寅	子	寅											
午巳	丙寅			八日	未	寅	申	戌	未	丑	申	卯	寅	卯	酉							
卯寅					辰	丑	未	未	丑	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	
卯寅	壬巳卯	夏	甲	十六日廿四日	丑	子	午	卯	寅	卯	寅	卯	寅	卯	酉	酉	酉	酉	酉	酉	酉	
午巳	庚辰		午	九日	午	亥	巳	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
辰戌未	辛巳				未	戌	辰	酉	午	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	
辰戌未					辰	酉	卯	午	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	
午巳					酉	未	戌	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	
酉申	壬子酉	秋	戌	十八日廿七日	丑	申	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅
酉申	癸亥			十日	未	戌	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	
午巳					廿日	午	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
酉申	壬午酉	冬	甲	卅日	辰	巳	亥	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	
酉申	癸亥		子																			
午巳																						

二行目の「辟臨」は六十四卦の一つで、通常は十二月節から二二日目頃にあたる。沐浴の吉日は申・酉・亥・子日であるが、この暦では酉・亥・子の三日とも「沐浴」の記載がある。「下弦」は陰暦では毎月二二・二三日頃にあたる。癸亥は凶会日にあたる。亥日は十二月の場合、亥日にあるが、癸亥は符合する。六行目甲子条の「大歲口」は「大小歲前」となるべきところである。天恩日は次の三ケースである。

- (イ) 甲子・乙丑・丙寅・丁卯・戊辰
(ロ) 己卯・庚辰・辛巳・壬午・癸未
(ハ) 己酉・庚戌・辛亥・壬子・癸丑

本暦の天恩日はこのうちの(イ)に相当する。

「帰忌血」は「帰忌血忌」の意で、帰忌日も血忌日もともに十二月は子日にあたる。七行目に本来は「乙丑金建大小歲前天恩……」とあるべきであるが、完全に一行分脱落している。したがって七行目は一日とばして「景寅火除除足甲候小過内大小歲前天恩……」となっている。景は唐代の高祖の父（李暎）の諱を避けて丙の代わりに用いられたことにならい、我が国でも使用した。例えば、名例律三十二疏「仮有。乙盜二甲物一。景転盜之」のことくである。一二直の「除」は中段の割書の位置に記載されている。「候小過内」は六十四卦の一つで、十二月節口から二十八日目頃に記される。「除足甲」は手甲は丑日、足甲は寅日を吉日とされているのにかなう。丁卯日の下段の暦注では「往亡」が年代判定の大きな決め手となる。往亡日は十二月の場合は十二月節から三十日目にあたる。本最終行は大歳の位置が他に比べて低い位置から書きはじめているのは、中段の記載が多いためであると考えられる。すなわち、節氣・七十二候、六十四卦すべて記載されていると判断することができる。「立春正月節」は二十四節氣、「東風解凍」は七十二候、「候小過外」は六十四卦であり、ともに正月節日に記すこととされている。

五、暦の年代判定

判定の重要な手がかりは二つある。この場合、乙丑条を脱行と判断して、以下考察する。

①立春正月節が己巳と考えられる。

②往亡日は丁卯日にあたり、十二月の場合小寒十一月節から三十日目に記される。したがって小寒一二月節は戊戌にあたる。この二条件をつぎに検討してみたい。

①立春正月節が己巳にあたる年は湯浅吉美編『日本暦日便覧』（汲古書院、一九八八年）を利用して検索するならば、八・九世紀を通じて次の四例のみである。

大宝二年暦（七〇二）——正月一日

神龜二年暦（七二五）——正月一四日

延暦二三年暦（八〇四）——二月二八日

天長五年暦（八二八）——正月一二日

このうち、正月一日は月初の表示がないことおよび正月一二日・一四日は遺存部が十二月であることからあたらない。

②小寒十二月節が戊戌にあたる年は、次の四例である。

大宝元年暦（七〇一）——十一月三〇日

天応元年暦（七八二）——十二月一四日

延暦二三年暦（八〇四）——十一月二七日

元慶八年暦（八八四）——十二月十二日

このうち、大宝元年暦は下弦癸亥日——十二月二十五日で不適当、小寒入節日が天応元年暦は十二月一四日、元慶八年暦は十二月一二日となることから対象外である。

したがつて、①と②の両条件を満たすのは、延暦二三年暦（八〇四）のみである。

なお、七十二候は一氣を三候として、一候の長さは大体五日、六十四卦は各節を基に一か月五卦ずつで、大体六日に一卦となつており、ともに前後一日のずれを考慮しなければならないが、参考までに示しておきたい。

延暦二三年暦の場合、

十九日庚申—辟臨（入節日より二三日目）

二二日癸亥—下弦

二三日甲子—水澤腹堅（入節日より二七日目）

二五日丙寅—候小過内（入節日より二八日目）

となり、ほぼ条件を満たしているので問題はないであろう。

以上から、本具注暦断簡は延暦二十三年暦（大衍暦）の十二月のうち一八日から二八日（二十四日は脱行）部分が遺存したものと判断することができる。延暦二三年暦とすれば、岩手県水沢市の胆沢城跡で一九八一年に発見された漆紙文書の表裏に書かれた延暦二二年・延暦二三年暦と同一年の暦の発見となる。胆沢城跡の延暦二三年暦は九月二十五日から十月の月初部分までの遺存であったので、本具注暦はちょうどその三ヶ月後に相当する。

最後に付記するならば、延暦二三年は東北地方においては、八世紀後半以来、約三十年間続いた律令国家と蝦夷えみしとの戦いが坂上田村麻呂の手によりようやく幕を閉じた直後にあたつてゐる。出羽国では国府が秋田城から山形県庄内地方所在と考えられる河辺府に移された年もある。いわば、本具注暦の年代は、古代東北史的一大画期の年ともいえるのである。

〔復原〕

十八日己未火破

厲疾鷺鳥

大歲位

十九日庚申木危

辟臨

大歲位月德祠祀壞垣破屋伐樹解除□

廿一日壬戌水収

沐浴

大歲位謝土祀井解除除服吉

廿二日癸亥水開

沐浴

大歲位漁獵種蒔吉

陰錯重厭

廿三日甲子金閏

水澤腹堅沐浴

大小歲前天恩天赦帰忌並祠祀□□上梁

(脫行)

廿四日乙丑金建

除足候小過甲內

大小歲前

大小歲前天恩拝官結婚

廿五日景寅火除

除足候小過甲內

大小歲前天恩往亡□□□□□経絡

廿六日丁卯火滿

除足候小過甲內

大小歲前天恩往亡□□□□□経絡

廿七日戊辰木平

除足候小過甲內

大小歲前天恩往亡□□□□□経絡

廿八日己巳木定

除足候小過甲內

大小歲前天恩往亡□□□□□経絡

立春正月節
東風解凍

大歲前小歲對天恩復裁衣買納

候小過外大歲位□□

(以下すべて湯浅吉美編『日本曆日便覧』による。)

大宝 2年 (A.D. 702) 王寅				大月は 2月. 3月. 5月. 7月. 9月. 12月	(平年) 年間日数 354日
				【農耕曆】	
[1] - 5 巳巳 (つものとひ)	正・1 (立春)	3・2	5・3	9・5	1・1・6 ***
[2] - 6 庚午 (かのえうし)	正・2	3・3	5・4 (清明)	7・4	1・1・7 ***
[3] - 7 辛未 (かのとのひ)	正・3	3・5	5・5 (芒種)	7・5	1・1・8 ***
[4] - 8 壬申 (みすのとひ)	正・4	3・6	5・6 (立秋)	7・6	1・1・9 ***
[5] - 9 癸酉 (みすのとひ)	正・5	3・7	5・7 (寒露)	7・7	1・1・10 (大雪) ***
[6] - 10 甲戌 (きのえいゆ)	正・6	3・8	5・8	7・8	1・1・11 ***
[7] - 11 乙亥 (きのとのゑ)	正・7	3・9	5・9	7・9	1・1・12 ***
[8] - 12 丙子 (ひのえいぬ)	正・8	3・10	5・10	7・10	1・1・13 ***
[9] - 13 丁丑 (ひのとのうし)	正・9	3・11	5・11	7・11	1・1・14 ***
[10] - 14 戊寅 (みすのとひ)	正・10	3・12	5・12	7・12	1・1・15 ***
[11] - 15 己卯 (きのえいぬ)	正・11	3・13	5・13	7・13	1・1・16 ***
[12] - 16 庚辰 (かのえたつ)	正・12	3・14	5・14	7・15	1・1・17 ***
[13] - 17 辛巳 (かのとのゑ)	正・13	3・15	5・15	7・16	1・1・18 ***
[14] - 18 壬午 (みすのえうし)	正・14	3・16	5・16	7・17	1・1・19 ***
[15] - 19 癸未 (みすのとひ)	正・15	3・17	5・17	7・18	1・1・20 ***
[16] - 20 甲申 (きのえくら)	正・16 (驚蟄)	3・18	5・18 (穀雨)	7・19	1・1・21 ***
[17] - 21 乙酉 (ひのいぬ)	正・17	3・19	5・20 (夏至)	7・20	1・1・22 ***
[18] - 22 丙戌 (ひのとのゑ)	正・18	3・20	5・21 (鯉鱈)	7・21	1・1・23 ***
[19] - 23 丁亥 (ひのとのゑ)	正・19	3・21	5・22 (霜降)	7・23	1・1・24 (冬至) ***
[20] - 24 戊子 (みすのとひ)	正・20	3・22	5・23	7・24	1・1・25 (冬至) ***
[21] - 25 己丑 (きのえうし)	正・21	3・23	5・24	7・25	1・1・26 ***
[22] - 26 庚寅 (かのえとら)	正・22	3・24	5・25	7・26	1・1・27 ***
[23] - 27 辛卯 (かのとのうし)	正・23	3・25	5・26	7・27	1・1・28 ***
[24] - 28 壬辰 (みすのえうし)	正・24	3・26	5・27	7・28	1・1・29 ***
[25] - 29 癸巳 (みすのとひ)	正・25	3・27	5・28	7・29	1・2・1 ***
[26] - 30 甲午 (きのとひ)	正・26	3・28	5・29	7・30	1・2・2 ***
[27] - 31 乙未 (きのとひ)	正・27	3・28	5・29	7・30	1・2・3 ***
[28] - 32 丙申 (ひのえさる)	正・28	3・29	5・30	8・1	1・1・4 ***
[29] - 33 丁酉 (ひのとのとり)	正・29	3・30	5・30	8・2	1・1・5 ***
[30] - 34 戊戌 (ひのいぬ)	正・29	3・1	6・1	8・3	1・1・6 ***
[31] - 35 己亥 (きのえいぬ)	正・30	4・1	6・1	8・4	1・1・7 ***
[32] - 36 庚子 (かのえとら)	正・31	4・2	6・2 (雨水)	8・5	1・1・8 ***
[33] - 37 辛丑 (かのとのうし)	正・32	4・3	6・3 (立夏)	8・6	1・1・9 ***
[34] - 38 壬寅 (みすのえとら)	正・33	4・4	6・4 (小暑)	8・7	1・1・10 (小暑) ***
[35] - 39 癸卯 (みすのとひ)	正・34	4・5	6・6	8・8	1・1・11 (立冬) ***
[36] - 40 甲辰 (きのえたつ)	正・35	4・6	6・7	8・9	1・1・12 ***
[37] - 41 乙巳 (ひのえいぬ)	正・36	4・7	6・8	8・10	1・1・13 ***
[38] - 42 丙午 (ひのえうし)	正・37	4・8	6・9	8・11	1・1・14 ***
[39] - 43 丁未 (ひののひつじ)	正・38	4・9	6・10	8・12	1・1・15 ***
[40] - 44 戊申 (ひのとのえさる)	正・39	4・10	6・11	8・13	1・1・16 ***
[41] - 45 己酉 (ひのいぬ)	正・40	4・11	6・12	8・14	1・2・1 ***
[42] - 46 庚戌 (かのえいぬ)	正・41	4・12	6・13	8・15	1・2・2 ***
[43] - 47 辛亥 (かのとのゑ)	正・42	4・13	6・14	8・16	1・2・3 ***
[44] - 48 壬子 (みすのえ)	正・43	4・14	6・15	8・17	1・2・4 ***
[45] - 49 癸丑 (みすのとひ)	正・44	4・15	6・16	8・17	1・2・5 ***
[46] - 50 甲寅 (きのえうし)	正・45	4・16	6・17	8・18	1・2・6 ***
[47] - 51 乙卯 (きのえうし)	正・46	4・17 (春分)	6・18	8・19	1・2・7 (大寒) ***
[48] - 52 丙辰 (かのとのどり)	正・47	4・18	6・19 (小滿)	8・20	1・2・8 ***
[49] - 53 丁巳 (ひのえいぬ)	正・48	4・19	6・20 (大暑)	8・21	1・2・9 ***
[50] - 54 戊午 (みすのとひ)	正・49	4・20	6・21	8・22 (秋分)	1・2・10 ***
[51] - 55 甲寅 (みすのえ)	正・50	4・21	6・22	8・23	1・1・11 ***
[52] - 56 庚申 (かのえ)	正・51	4・22	6・23	8・24	1・1・12 ***
[53] - 57 辛酉 (かのとのどり)	正・52	4・23	6・24	8・25	1・1・13 ***
[54] - 58 壬戌 (みすのえ)	正・53	4・24	6・25	8・26	1・1・14 ***
[55] - 59 甲子 (みすのとひ)	正・54	4・25	6・26	8・27	1・1・15 ***
[56] - 60 乙丑 (ひのえ)	正・55	4・26	6・27	8・28	1・1・16 ***
[57] - 61 丙寅 (ひのえ)	正・56	4・27	6・28	8・29	1・1・17 ***
[58] - 62 丁卯 (ひのえ)	正・57	4・28	6・29	9・1	1・1・18 ***
[59] - 63 戊辰 (ひのとのえ)	正・58	4・29	7・1	9・2	1・1・19 ***
[60] - 64 甲子 (みすのとひ)	正・59	4・30	7・2	9・3	1・1・20 ***
[61] - 65 乙丑 (ひのえ)	正・60	4・1	7・3	9・4	1・1・21 ***

延暦 23年 (A. D. 804) 甲申

大の月は 2月。 5月。 7月。 9月。 10月。 11月。

(平年) 年間日数 354日

【大衍曆】

[1] - 13 丁丑 ((ひのとのうし)	正・ 1 3 · 2 5 · 4 7 · 5 9 · 6 11 · 6 *
[2] - 14 戊寅 ((みのとのうし)	正・ 2 3 · 3 5 · 5 7 · 6 9 · 7 11 · 7 ***
[3] - 15 己卯 ((つちのとのうし)	正・ 3 (雨水) 3 · 4 5 (般雨) 5 · 7 (夏至) 7 · 9 10 (処暑) 9 · 10 11 · 8 ***
[4] - 16 庚辰 ((かのとだつ)	正・ 4 5 (雨水) 3 · 6 5 (般雨) 5 · 7 (夏至) 7 · 9 10 (処暑) 9 · 10 11 · 9 ***
[5] - 17 辛巳 ((かのとみのうし)	正・ 5 6 3 · 7 5 · 9 7 · 10 9 · 11 (霜降) 11 · 12 (冬至) ***
[6] - 18 壬午 ((みすのえうま)	正・ 6 3 · 8 5 · 10 7 · 11 9 · 12 11 · 13 ***
[7] - 19 癸未 ((みすのとのひつじ)	正・ 7 3 · 9 5 · 11 7 · 12 9 · 13 11 · 14 ***
[8] - 20 甲申 ((きのえさる)	正・ 8 3 · 10 5 · 12 7 · 13 9 · 14 11 · 15 ***
[9] - 21 乙酉 ((きのとのとり)	正・ 9 3 · 11 5 · 13 7 · 14 9 · 15 11 · 16 ***
[10] - 22 丙戌 ((ひのえいぬ)	正・ 10 3 · 12 5 · 14 7 · 15 9 · 16 11 · 17 ***
[11] - 23 丁亥 ((ひのとのゑ)	正・ 11 3 · 13 5 · 15 7 · 16 9 · 17 11 · 18 ***
[12] - 24 戊子 ((みのとのゑ)	正・ 12 3 · 14 5 · 16 7 · 17 9 · 18 11 · 19 ***
[13] - 25 己丑 ((つちのとのゑ)	正・ 13 3 · 15 5 · 17 7 · 18 9 · 19 11 · 20 ***
[14] - 26 庚寅 ((かのえとら)	正・ 14 3 · 16 5 · 18 7 · 19 9 · 20 ***
[15] - 27 辛卯 ((かのとのうし)	正・ 15 3 · 17 5 · 19 7 · 20 9 · 21 11 · 22 ***
[16] - 28 壬辰 ((みすのえなつ)	正・ 16 3 · 18 5 · 20 7 · 21 9 · 22 11 · 23 ***
[17] - 29 癸巳 ((みすのとのみ)	正・ 17 3 · 19 5 · 21 7 · 22 9 · 23 11 · 24 ***
[18] - 30 甲午 ((きのえうま)	正・ 18 (驚蟄) 3 · 20 (立夏) 3 · 21 (小暑) 7 · 24 (白露) 9 · 25 (秋分) 11 · 26 (小寒) ***
[19] - 31 乙未 ((きののひつじ)	正・ 19 3 · 22 5 · 22 7 · 23 9 · 24 11 · 29 ***
[20] - 32 丙申 ((ひのえさる)	正・ 20 3 · 23 5 · 23 7 · 24 9 · 25 11 · 30 ***
[21] - 3 丁酉 ((ひのとのとり)	正・ 21 3 · 24 5 · 24 7 · 25 9 · 26 (立冬) 11 · 26 (小寒) ***
[22] - 3 丙戌 ((ひのえいぬ)	正・ 22 3 · 25 5 · 25 7 · 26 9 · 28 11 · 28 ***
[23] - 3 丁亥 ((ちのえいぬ)	正・ 23 3 · 26 5 · 27 7 · 28 9 · 29 11 · 29 ***
[24] - 3 庚子 ((みののえとら)	正・ 24 3 · 27 5 · 28 7 · 29 9 · 30 11 · 30 ***
[25] - 3 辛丑 ((かのとのうし)	正・ 25 3 · 28 5 · 29 7 · 30 10 · 1 12 · 1 ***
[26] - 3 玄枵 ((みすのえとら)	正・ 26 3 · 29 5 · 30 8 · 1 10 · 2 12 · 2 ***
[27] - 3 壬戌 ((みすのとのうし)	正・ 27 3 · 30 5 · 31 8 · 2 10 · 3 12 · 3 ***
[28] - 3 癸亥 ((みのとのゑ)	正・ 28 3 · 29 6 · 1 8 · 3 10 · 4 12 · 4 ***
[29] - 4 甲子 ((みののえ)	正・ 29 4 · 1 6 · 2 8 · 3 10 · 5 12 · 5 ***
[30] - 4 丙午 ((ひのえうま)	正・ 29 4 · 1 6 · 3 8 · 4 10 · 6 12 · 6 ***
[31] - 4 丁未 ((ひのとのひつじ)	正・ 30 4 · 2 6 · 4 8 · 5 10 · 7 12 · 7 ***
[32] - 4 戊申 ((みののえさる)	正・ 31 4 · 3 6 · 5 8 · 6 10 · 8 12 · 8 ***
[33] - 4 丙戌 ((みのとのとり)	正・ 32 4 · 4 6 · 6 8 · 7 10 · 9 12 · 9 ***
[34] - 4 庚戌 ((かのとのゑ)	正・ 33 4 · 5 6 · 7 8 · 8 10 · 10 12 · 10 ***
[35] - 4 甲子 ((みののえ)	正・ 34 4 · 6 6 · 8 8 · 9 10 · 11 12 · 11 ***
[36] - 4 丙午 ((ひのえうま)	正・ 35 4 · 7 6 · 9 8 · 10 (秋分) 10 · 11 12 · 12 (大寒) ***
[37] - 4 丁未 ((ひのとののみ)	正・ 36 4 · 8 6 · 10 8 · 11 10 · 12 (小雪) 12 · 12 (大寒) ***
[38] - 5 甲寅 ((みののえ)	正・ 37 4 · 9 6 · 11 8 · 12 10 · 13 12 · 13 (大寒) ***
[39] - 5 丙寅 ((みののえ)	正・ 38 4 · 10 6 · 12 8 · 13 10 · 14 12 · 14 (大寒) ***
[40] - 5 乙卯 ((きのとのうし)	正・ 39 4 · 11 6 · 12 8 · 13 10 · 14 12 · 14 (大寒) ***
[41] - 5 丙辰 ((みののえ)	正・ 40 4 · 12 6 · 13 8 · 14 10 · 15 12 · 15 (大寒) ***
[42] - 5 丁巳 ((ひのとのみ)	正・ 41 4 · 13 6 · 14 8 · 15 10 · 16 12 · 16 (大寒) ***
[43] - 5 戊午 ((みののえ)	正・ 42 4 · 14 6 · 15 8 · 16 10 · 17 12 · 17 (大寒) ***
[44] - 5 己未 ((みののひつじ)	正・ 43 4 · 15 6 · 16 8 · 17 10 · 18 12 · 18 (大寒) ***
[45] - 5 庚申 ((みののえさる)	正・ 44 4 · 16 6 · 17 8 · 18 10 · 19 12 · 19 (大寒) ***
[46] - 5 辛酉 ((みののえ)	正・ 45 4 · 17 6 · 18 8 · 19 10 · 20 12 · 20 (大寒) ***
[47] - 5 壬戌 ((みすのえいぬ)	正・ 46 4 · 18 6 · 19 8 · 20 10 · 21 12 · 21 (大寒) ***
[48] - 5 癸亥 ((みすのとのゑ)	正・ 47 4 · 19 6 · 20 8 · 21 10 · 22 12 · 22 (大寒) ***
[49] - 6 甲子 ((きのね)	正・ 48 4 · 20 (清明) 4 · 21 (芒種) 6 · 22 8 · 23 10 · 23 12 · 23 (大寒) ***
[50] - 6 乙丑 ((きのとのうし)	正・ 49 4 · 21 (芒種) 6 · 23 (立秋) 8 · 24 10 · 24 12 · 24 (大寒) ***
[51] - 6 丙寅 ((みののえとら)	正・ 50 4 · 22 6 · 24 8 · 25 (穀雨) 10 · 25 12 · 25 (大寒) ***
[52] - 6 丁卯 ((ひののえ)	正・ 51 4 · 23 6 · 25 8 · 26 (大寒) 10 · 26 12 · 26 (大寒) ***
[53] - 6 戊辰 ((みすのえ)	正・ 52 4 · 24 6 · 26 8 · 27 10 · 28 12 · 28 (立春) ***
[54] - 6 己未 ((みののえ)	正・ 53 4 · 25 6 · 27 8 · 28 10 · 29 12 · 29 (立春) ***
[55] - 6 庚午 ((みののえ)	正・ 54 4 · 26 6 · 28 8 · 29 10 · 30 12 · 30 (立春) ***
[56] - 6 辛未 ((みすのえ)	正・ 55 4 · 27 6 · 29 9 · 1 11 · 1 12 · 30 (立春) ***
[57] - 6 玄枵 ((みすのえ)	正・ 56 4 · 28 6 · 30 9 · 2 11 · 2 12 · 30 (立春) ***
[58] - 7 壬戌 ((きのね)	正・ 57 4 · 29 6 · 31 9 · 3 11 · 3 12 · 30 (立春) ***
[59] - 7 癸亥 ((きのとのる)	正・ 58 5 · 1 7 · 2 9 · 4 11 · 3 12 · 30 (立春) ***
[60] - 7 甲子 ((きのえ)	正・ 59 5 · 2 7 · 3 0 9 · 4 11 · 4 12 · 30 (立春) ***
	正・ 60 5 · 3 7 · 4 9 · 5 11 · 5 12 · 30 (立春) ***

大宝	元年	(A. D.)	701	辛丑	大の月は		2月	3月	6月	9月	11月	12月	(平年)	年間日数	354日
					改元は	3月21日	7	4	9	6	11	7	***		
[1] - 1 [2] - 1 [3] - 1 [4] - 1 [5] - 1	乙亥 丙子 丁丑 戊寅 己卯	(きのとる) (心のえね) (ひのとのうし) (つちのえとら) (かのえたつ)	正 正 正 正 正	1 2 3 4 5	3 3 3 3 3	2 3 4 5 6	5 5 5 5 5	3 4 5 6 7	7 6 5 4 3	9 9 9 9 9	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[6] - 1 [7] - 1 [8] - 1 [9] - 1 [10] - 1	庚辰 辛巳 壬午 癸未 甲申	(かのえたつ) (心のとのみ) (みずのえうま) (みずのとびつじ) (きのえさる)	正 正 正 正 正	6 7 8 9 10	3 3 3 3 3	7 8 9 10 11	6 7 8 9 10	8 9 10 11 12	7 7 7 7 7	9 9 9 9 9	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[11] - 2 [12] - 2 [13] - 2 [14] - 2 [15] - 2	乙酉 丙戌 丁亥 戊子 己丑	(きのとる) (心のえいぬ) (ひのとのる) (つちのえね) (かのえどら)	正 正 正 正 正	11 12 13 14 15	3 3 3 3 3	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[16] - 2 [17] - 2 [18] - 2 [19] - 2 [20] - 3	庚寅 辛卯 壬辰 癸巳 甲午	(かのとく) (みすのえたつ) (みすのとみ) (きのえうま) (きのとひび)	正 正 正 正 正	16 17 18 19 20	3 3 3 3 3	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[21] - 3 [22] - 3 [23] - 3 [24] - 3 [25] - 3	乙未 丙申 丁酉 戊戌 己亥	(ひのえさる) (ひのとひ) (ひのととる) (つちのとひる) (きのとみ)	正 正 正 正 正	21 22 23 24 25	3 3 3 3 3	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[26] - 3 [27] - 3 [28] - 3 [29] - 3 [30] - 3	庚申 辛丑 壬寅 癸卯 甲辰	(かのとく) (みすのとく) (みすのとる) (みすのとみ) (きのとみ)	正 正 正 正 正	26 27 28 29 30	3 3 3 3 3	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[31] - 3 [32] - 3 [33] - 3 [34] - 3 [35] - 3	庚午 辛未 壬未 癸未 甲未	(かのとく) (みすのとく) (みすのとる) (みすのとみ) (きのとみ)	正 正 正 正 正	26 27 28 29 30	3 3 3 3 3	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[36] - 4 [37] - 4 [38] - 4 [39] - 4 [40] - 4	庚戌 辛亥 壬子 癸丑 甲戌	(かのえいぬ) (かのとのる) (みすのえ) (みすのとく) (きのえとら)	正 正 正 正 正	29 30 31 32 33	3 3 3 3 3	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[41] - 5 [42] - 5 [43] - 5 [44] - 5 [45] - 5	乙卯 丙辰 丁巳 戊午 己未	(きのとく) (ひのえたつ) (ひのとみ) (ひのえうま) (つちのとひじ)	正 正 正 正 正	31 32 33 34 35	2 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[46] - 5 [47] - 5 [48] - 5 [49] - 5 [50] - 5	庚申 辛酉 壬戌 癸亥 甲子	(かのえさる) (ひのとく) (みすのえいぬ) (みすのとく) (きのえ)	正 正 正 正 正	31 32 33 34 35	2 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[51] - 5 [52] - 5 [53] - 5 [54] - 5 [55] - 5	乙丑 丙寅 丁卯 戊辰 己巳	(きのとく) (ひのえとら) (ひのとのう) (みすのえ) (つちののみ)	正 正 正 正 正	31 32 33 34 35	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	
[56] - 6 [57] - 6 [58] - 6 [59] - 6 [60] - 6	庚午 辛未 壬申 癸酉 甲戌	(かのえうま) (ひのえいぬ) (みすのえ) (みすのとく) (きのえいぬ)	正 正 正 正 正	31 32 33 34 35	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	2 2 3 4 5	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	

参考文献

平川南

V 胆沢城跡第四五次調査出土漆紙文書（一九八四）

『水沢市教育委員会』

平川南

秋田城跡第五四次調査地出土の漆紙文書

—「（出羽国）大帳案」様文書—（一九九〇）

『秋田市教育委員会』

写 真 図 版

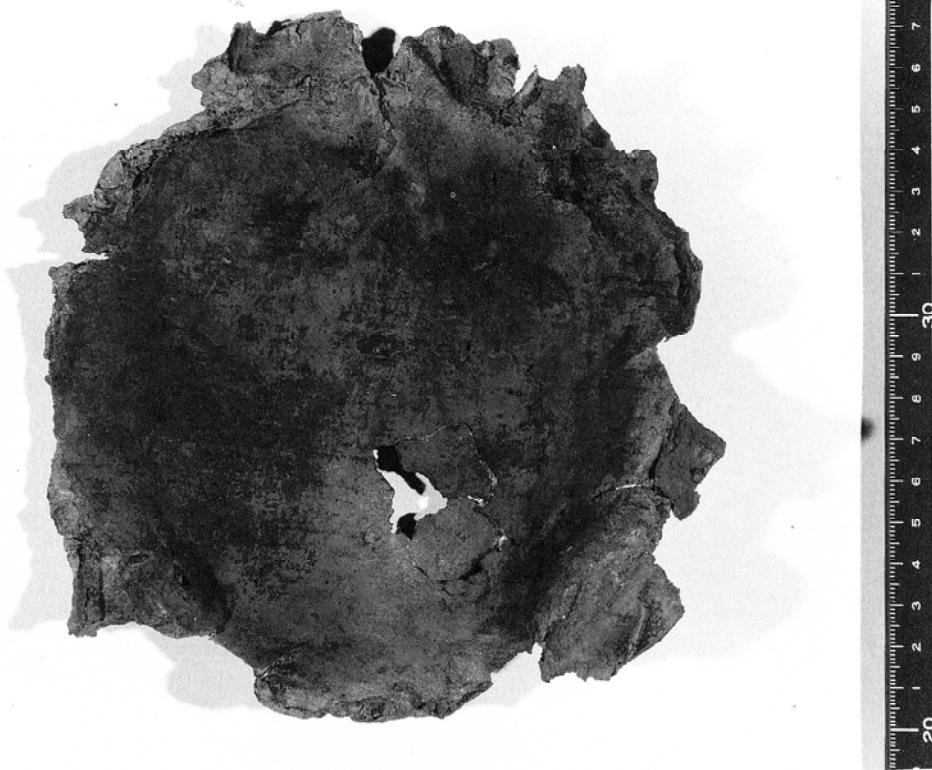


▲漆紙文書〔表〕



▲漆紙文書〔裏—漆付着面〕

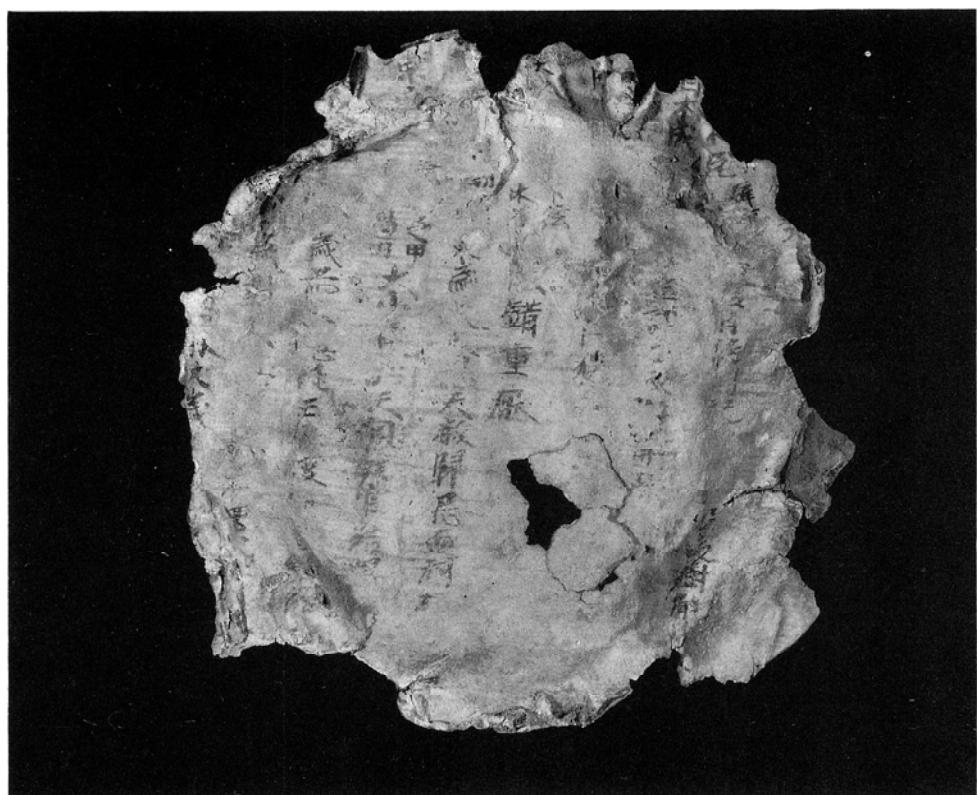
第一図版



▲漆紙文書〔表〕

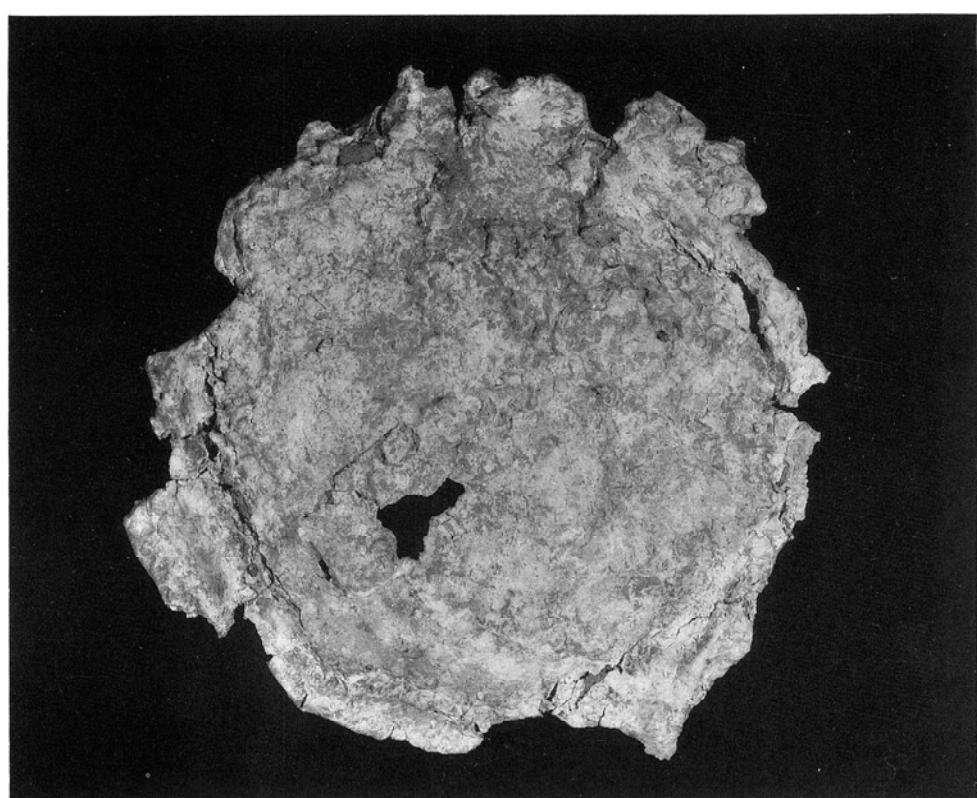


▲漆紙文書〔裏—漆付着面〕



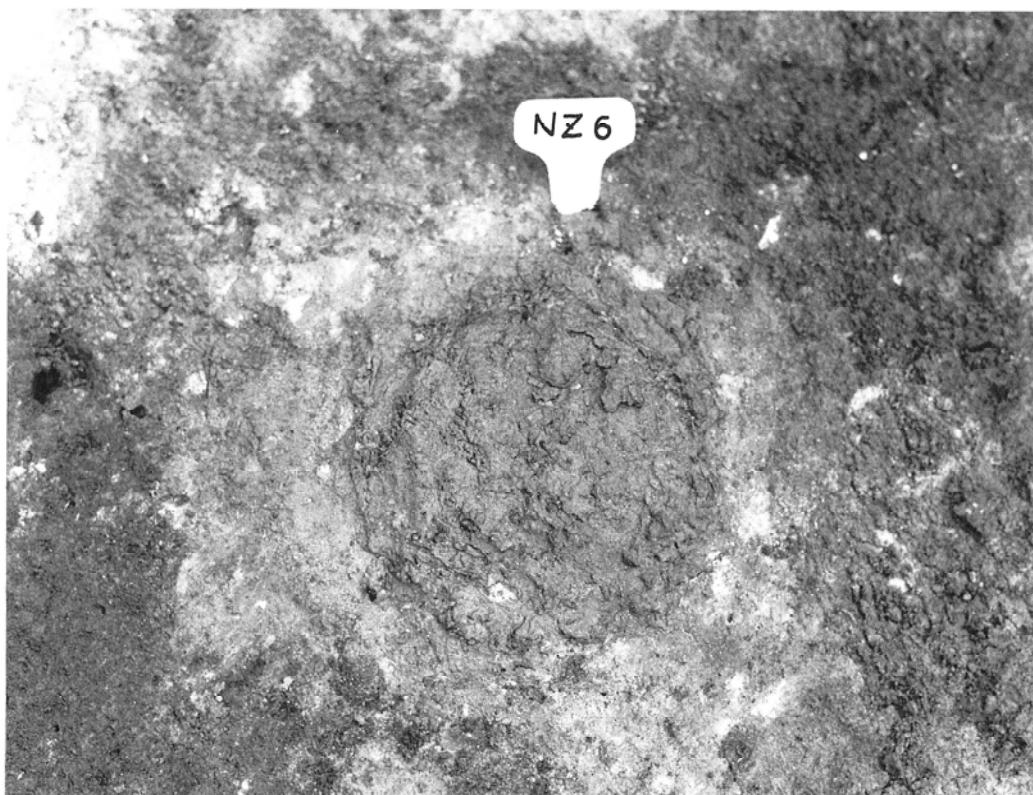
▲漆紙文書〔表〕

赤外線フィルム写真
(国立歴史民俗博物館 勝田 徹氏撮影)



▲漆紙文書〔裏—漆付着面〕

赤外線フィルム写真
(国立歴史民俗博物館 勝田 徹氏撮影)

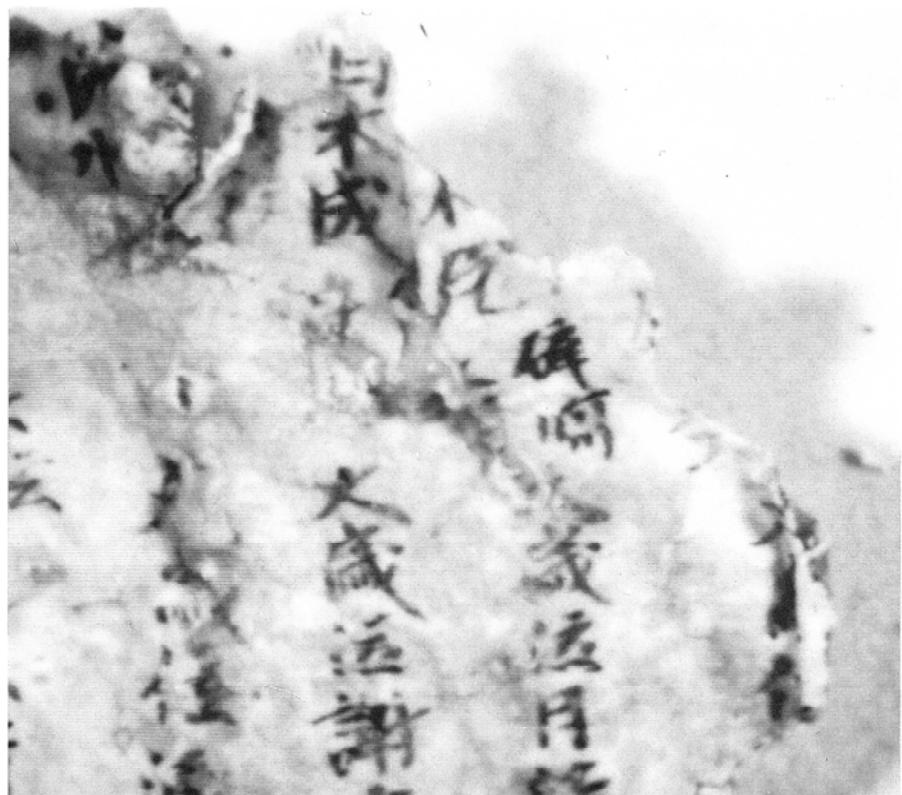


▲漆紙文書出土状況

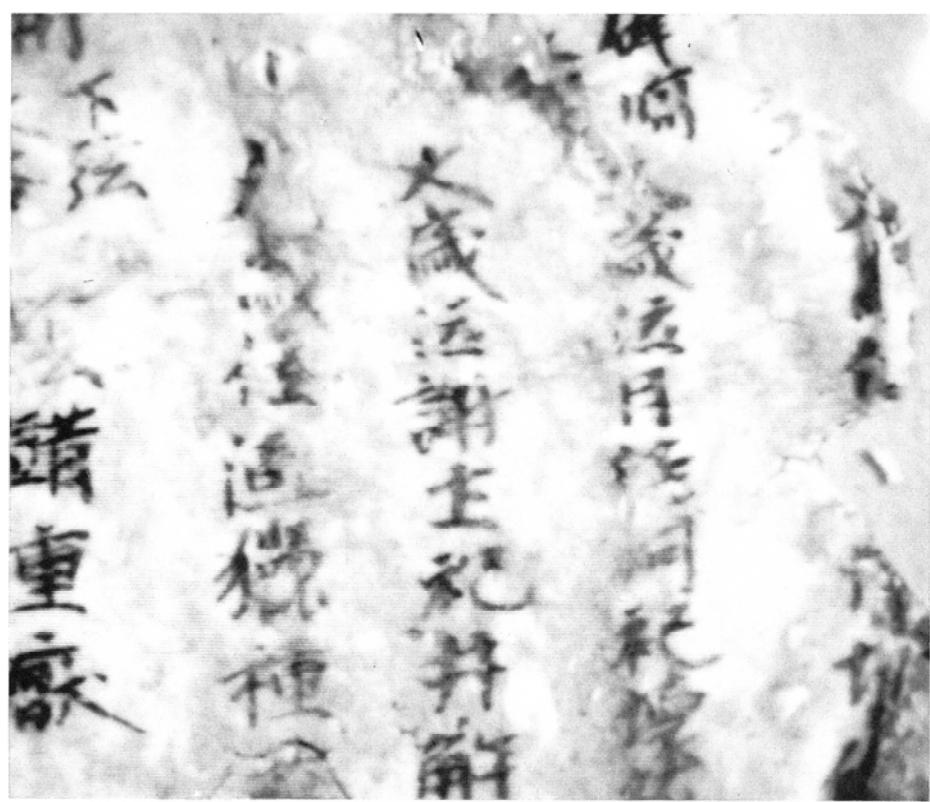


▲漆紙文書—具注曆〔全体〕

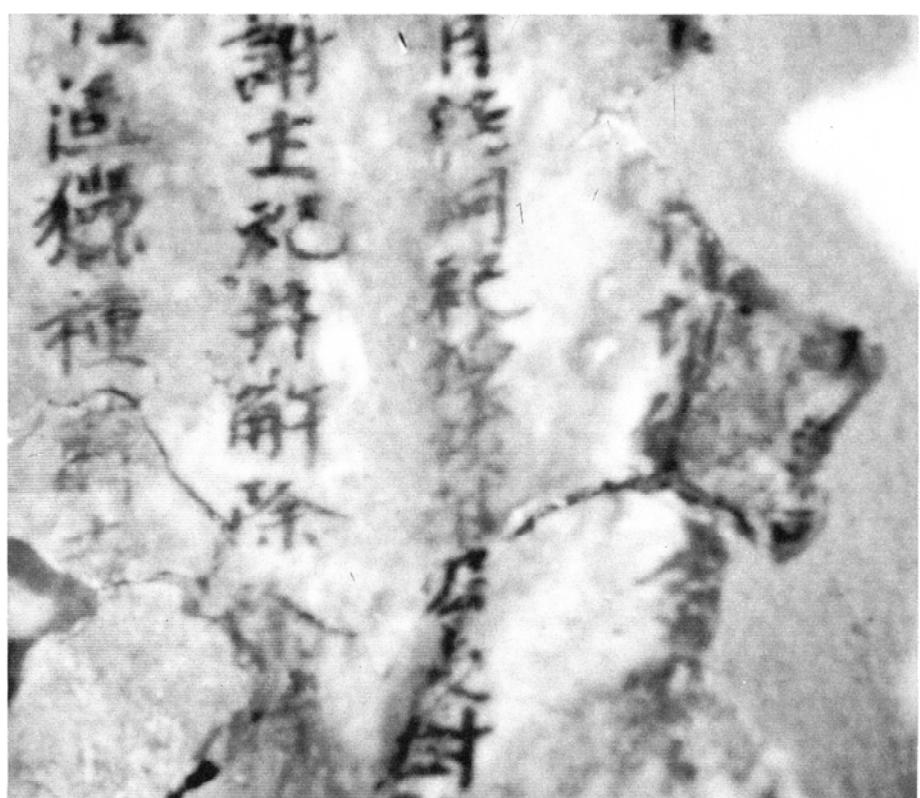
赤外線テレビ写真



▲部 分



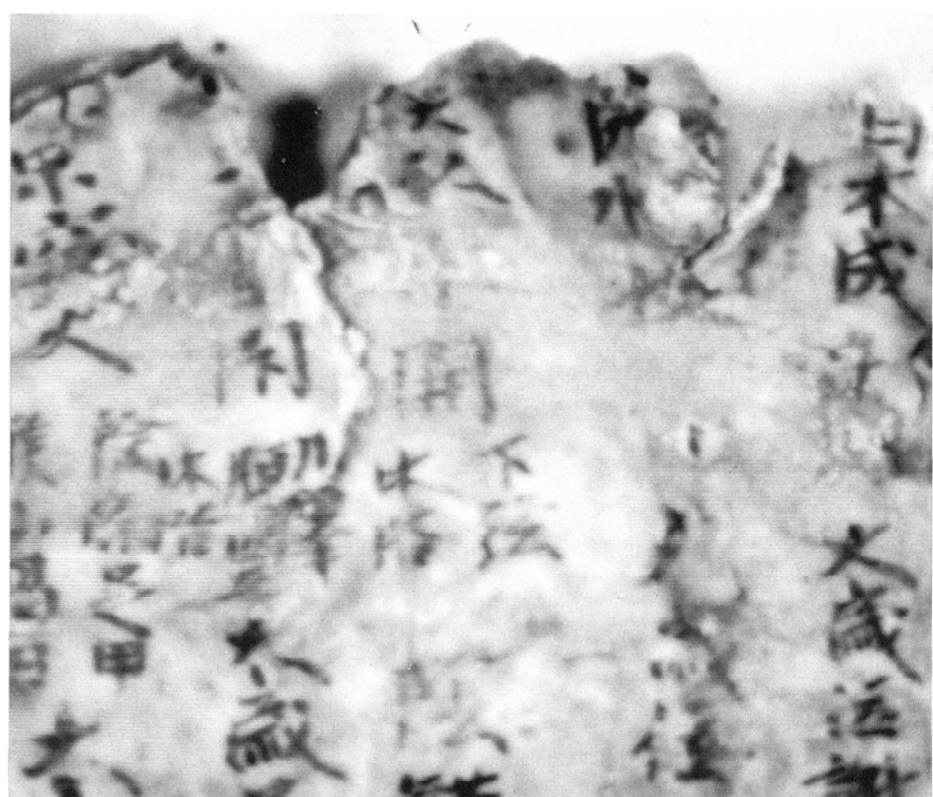
▲部 分



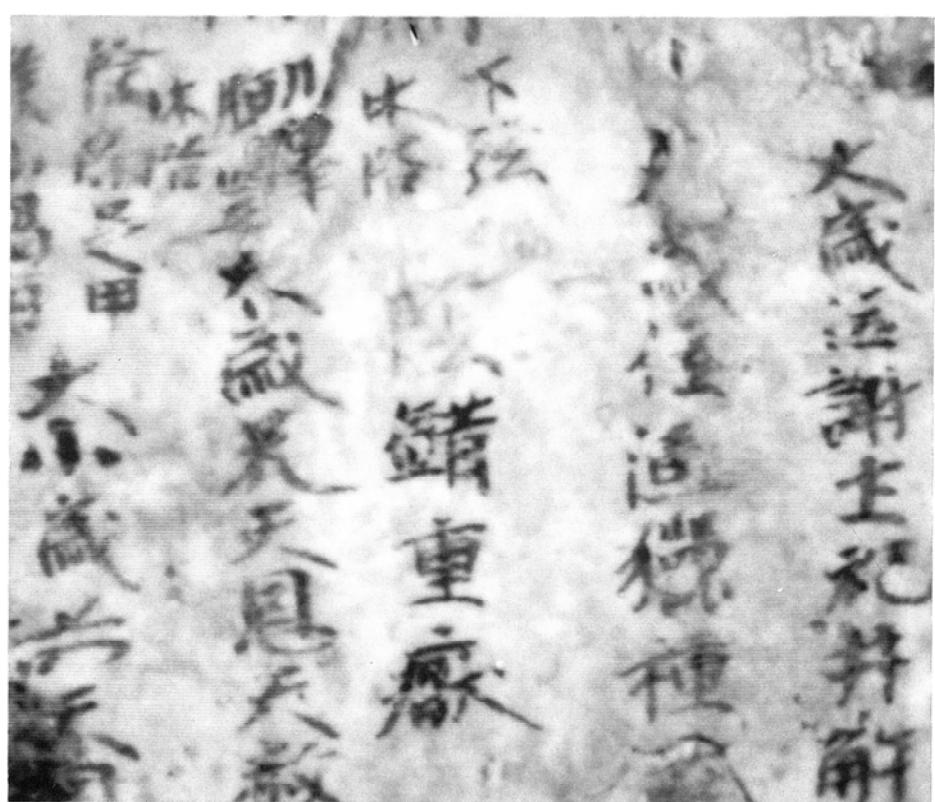
▲部 分



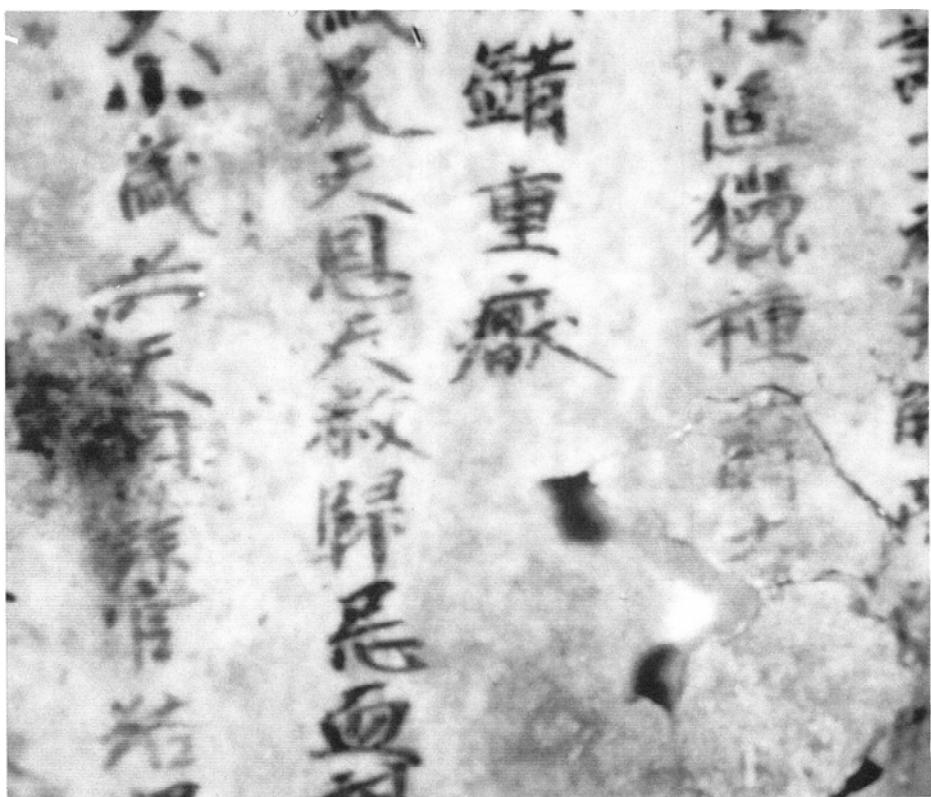
▲部 分



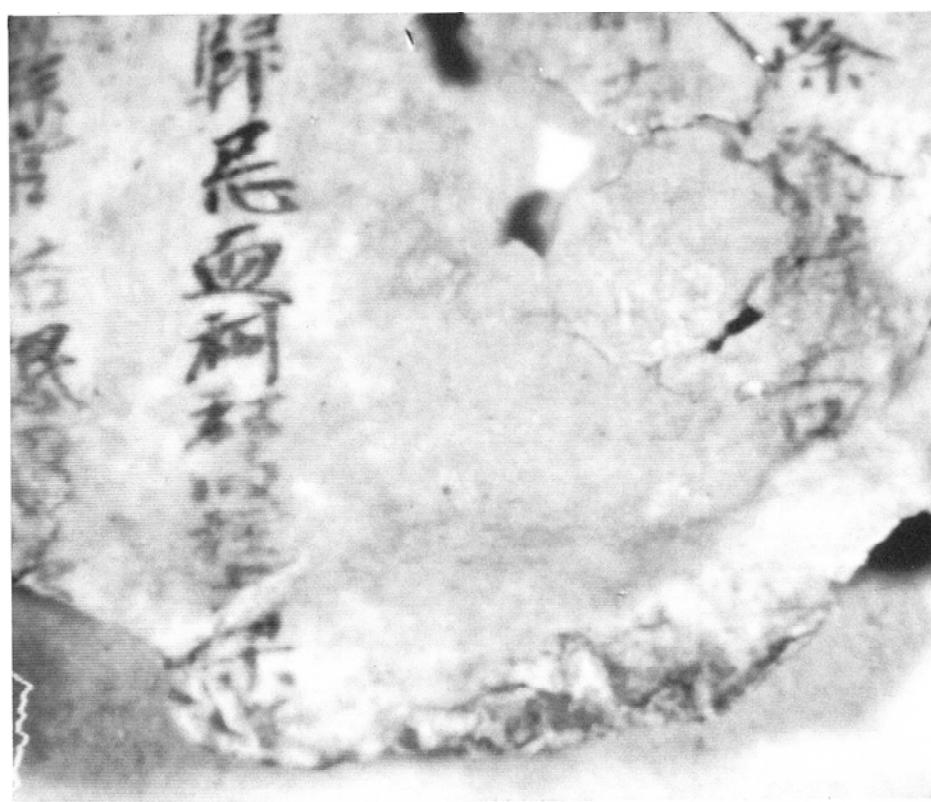
▲部 分



▲部 分



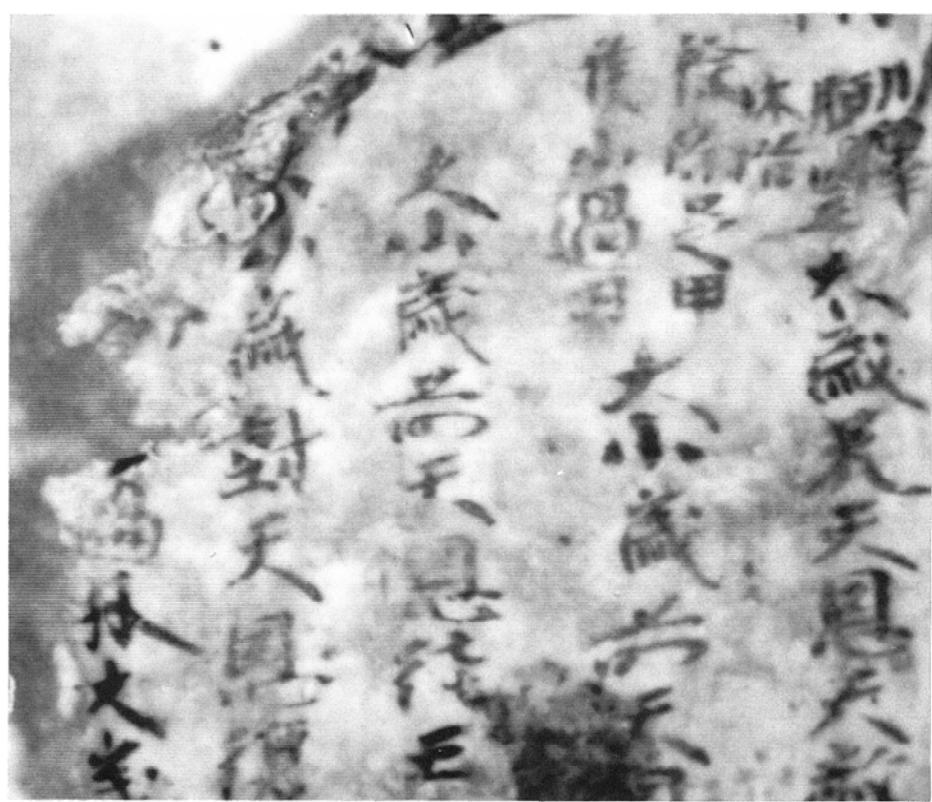
▲部 分



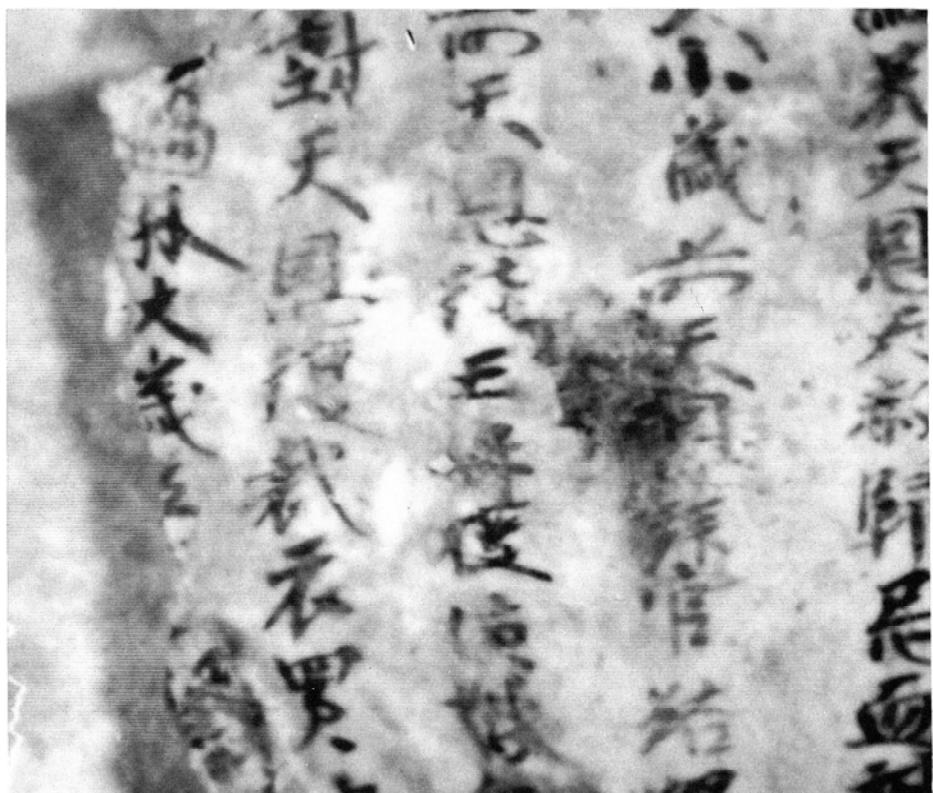
▲部 分



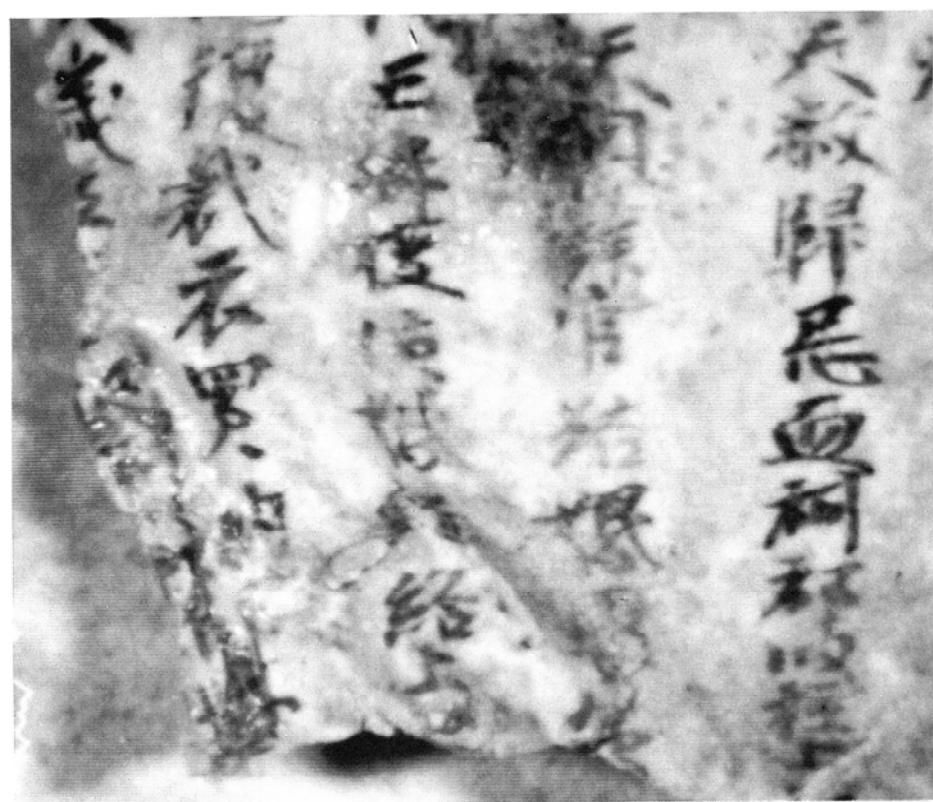
▲部 分



▲部 分



▲部 分



▲部 分

米沢市埋蔵文化財報告書第36集

大 浦

大浦B遺跡発跡発掘調査報告書

平成5年3月25日 印刷

平成5年3月31日 発行

発行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1—55
TEL (0238)22-5111(内線 7504)

印刷 (株) 羽陽印刷
米沢市中央三丁目9—22
TEL (0238) 23-0467

